

# 平成26年度清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会

日時：平成27年3月23日（月）15:00～16:30

場所：岐阜県庁 議会西棟2階 第3会議室

---

## 1. 開会

---

### 【事務局（矢川）】

定刻になりましたので、ただいまから平成26年度清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会を開催いたします。

私は本日の進行を務めさせていただきます、岐阜県県土整備部河川課維持係の矢川でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、主催者を代表いたしまして本来は県土整備部長の山本が御挨拶申し上げますところですが、所用により欠席でございますので、土木技監の河合より御挨拶を申し上げます。

---

## 2. 挨拶

---

### 【岐阜県県土整備部土木技監（河合）】

県土整備部土木技監の河合でございます。

本日は、年度末の一番お忙しい中、高須輪中の大江川の環境対策協議会に御出席いただきまして、ありがとうございます。

大江川の水質浄化対策でございますけれども、平成22年にアオコが発生したということで、その後、揖斐川からの試験導水を実施し、昨年度から本格導水ということで5年間導水するということで今進めております。

昨年度は、大江川の水温と2度程低くなったというふうに聞いております。それで効果もあったということでございますけれども、今年度も雨も多かったせいかわかりませんが、それ以上に水温が低下したということでアオコの発生は避けられたというような状況だというふうに聞いております。

ただ、新たにまたウキクサというような、後ほど説明があるかと思っておりますけれども、別の水草のほうも発生しているというようなことを聞いております。いろいろ導水等の取り組みもしながら、恒久対策のほうも一緒にやっていこうということで、協議会の中でやっていくことでございますけれども、県では昨年でございますけれども、清流の国ぎふの基本理念となる清流の国ぎふ憲章を策定しております。その中で、清流の国ぎふづくりに取

り組んでいく中で、この大江川の水質浄化というのは大きな施策の柱というふうと考えております。

本日も皆様の御意見を伺いながら、浄化対策をより一層進めていきたいというふうを考えておりますので、忌憚のない御意見等いただければと、よろしくお願ひしたいと思ひます。簡単ではございますが、最初の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。

**【事務局（矢川）】**

議事に先立ちまして、お手元に配付の資料の確認をさせていただきます。

資料の頭からですね。本日の議事次第、裏面に委員の名簿を載せております。本日の席次表、A4、1枚です。

資料1といたしまして、清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会設置要綱が1枚です。資料2といたしまして、ホチキスどめ、平成25年度以降の水質浄化対策の実施方針について。資料3としまして、平成26年度の水質浄化対策の実施結果について。資料4としまして、来年度の水質浄化対策について。あと、A3の参考資料、ホチキスどめのものと、26年度の揖斐川から大江川への導水実施結果というA3、1枚のものが本日の資料となっております。

不足がございましたら、事務局のほうへ申し出ていただきたいと思います。

続きまして、本日の出席者につきましては、机上の委員一覧のとおりでございます。

なお、本日、国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所の澁谷慎一所長の代理として戸谷副所長、農林水産省東海農政局整備部水利整備課の八木康夫課長の代理として浅田進一管理調整官、西濃振興局振興課の山田昇治課長の代理として仙田光一環境課長に御出席をいただいております。

それでは、議事に入らせていただきます。

座長の水野瑞夫岐阜薬科大学名誉教授より、御挨拶並びに議事進行をよろしくお願ひいたします。

---

3. 議題（1） 清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会設置要綱改定について

---

**【岐阜薬科大学名誉教授／自然学総合研究所最高顧問（水野）】**

皆さん、こんにちは。

先ほどの御挨拶もございましたが、各委員には年度末の御多忙にもかかわらず、清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この協議会は設置以来、各委員の方の建設的な活発な議論を得まして、今日に至っております。対策も随分と進んでまいりました。今年度も、昨年度に引き続いて揖斐川から大江川への導水を実施されました。この方式は画期的なものであって、それに対するアオコの大量発生というような問題に大いに影響を与えていると思ひますが、昨年度は気候の関

係からアオコの大量発生というような問題は一応免れたようでございます。

今後、そういった導水を含めてどのような形で浄化対策をしていくかというようなことを検証しながら、今後この会議を進めていきたいと思っております。皆様方の御意見を頂戴して引き続き議事が進められますようお願いして、私の挨拶にかえます。

それでは、引き続き議事に移らせていただきますが、本日の議事は議事次第にございますようにその他を含めて5件ございます。

まず、清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会設置要綱改定についての議事でございますが、事務局から御説明ください。

**【事務局（矢川）】** 設置要綱の改定について御説明させていただきます。

資料1の裏面をごらんください。

委員の役職でございますが、組織の改正に伴いまして、下から3番目の岐阜県西濃振興局振興課長とさせていただきます。改正前が振興局副局長でございました。一番下の岐阜県水産研究所長も改正により、岐阜県河川環境研究所長が前任となっております。

組織の改正によるものとして、今回設置要綱の改正を議事の1として上げさせていただきました。簡単ではございますが、説明は以上です。

**【座長（水野）】**

ありがとうございました。

今のところで何か御意見ございませんか。

（「ありません」の声あり）

お願いですが、議事の発言をされるときに、所属、名前をぜひおっしゃっていただければ議事の進行と、あと議事の整理の都合に非常に役に立ちますから、よろしく願いいたします。

それでは、引き続き議事の2に入りますが、平成25年度以降の水質浄化対策の実施方針についてに入ります。事務局、お願いします。

---

### 3. 議題（2） 平成25年度以降の水質浄化対策の実施方針について

---

**【事務局（岩崎）】**

事務局をしております県土整備部次長兼河川課長の岩崎でございます。

資料2をごらんください。

こちらにつきましては、少しおさらいのような形になりますけれども、これまでの取り組み組んできたことを踏まえて、実施方針を立てたものでございまして、そのあたりのアウトラインを簡単に御説明させていただきます。

御案内のとおり、大江川の環境対策につきましては、平成22年のアオコの大発生以降、協議会を設置し、23年から24年度にかけてまして導水等の社会実験並びに各種調査を行いま

して、アオコの発生メカニズムと、それを踏まえて当面の対策、中・長期的な対策などを組み合わせて、関係機関が連携して取り組んでいくことを実施計画に定めまして、皆さんの御協力をいただきながら進めさせていただいているものでございます。

まず1つ目の中長期的対策、当面の対策及び地域における取り組みでございますけれども、この図の1にありますとおり、当面の対策、それから中長期的な対策というふうに分かれてございます。この背景といたしましては、大江川のアオコの発生要因というものが流域からの栄養塩類が流出してきて高濃度存在し、そういったところに夏季において水温が30度以上になる、また滞留時間が十分ということで、風が弱い、こういうような条件がそろい大発生したわけでございます。その根本的な原因でございますけど、流域からの栄養塩類の削減ということが抜本的な対策として必要なわけでございますけれども、この取り組みとしましては中長期的対策として、農地等における栄養塩類の削減対策の継続、これは岐阜県の農政部さんが地域の方の御協力をいただきながら取り組んでいるものでございます。

2つ目の下水道の整備推進及び水洗化率向上に向けた取り組みとしましては、海津市さんにおきまして、各戸からの生活排水の削減という取り組みでございます。

こういった中長期的対策といいますのは、効果が直ちに出てくるというものではございませんで、そういったことを補完するために当面の対策としまして、揖斐川からの導水、これは県が専用ポンプ施設をつくりまして、海津市さんの御協力並びに水源等の手当てにつきましては中部地整さん、あるいは水資源機構さんの御協力をいただきながら実施しているところであります。

さらにこの対策を実施している中で、アオコが発生した場合の取り組みとして水面の攪拌なども、こちら県並びに海津市、専用機器につきましては国交省さんの御協力をいただきながら取り組むというものでございます。

あわせまして地域の取り組みとして、こちらは海津市の住民の方、あるいは高校生のお力をおかりしながら、啓発活動を進めているものでございますけれども、まず1つ目はパトロールでございます。これは定期的に海津市民の御協力をいただきながら、水面の状況を監視していただく。並びに河川の清掃活動をより啓発をしていただくということでございます。また、地元の海津明誠高校の学生さんの取り組みとしまして、空芯菜を用いた水質浄化対策、あるいは啓発ポスターを作成し、そういった活動をされているところでございます。

2つ目の目標として、最終的な目標はアオコの発生の解消というところが究極の目標でございますけれども、当面の目標としまして、大発生の直前でございますが、アオコの発生のレベルがレベル2というところで、バッチ状にアオコが浮いてくる程度まで抑え込むというところが当面の目標として実施をさせていただいているところでございます。

2ページ目をごらんください。

今申し上げました当面の対策、あるいは中長期的対策というものを25年から29年、ある

いは29年度以降にかけて実施していくわけでございますけれども、この当面の対策につきましては開始年度であります平成25年から概ね5カ年間を一つの区切りといたしまして、その時点で効果の検証というものを行って、その後の対策をどうしていくのかということについて検討材料とするところでございます。

この表の中に各施策、あるいは関連する施策の実施主体、関係主体を記載してございますけれども、いずれにいたしましても関係機関の御協力が不可欠でございますので、今年度以降も引き続き御協力のほどをよろしくお願ひしたいというふうに思います。

簡単でございますけれども、資料2の説明は以上でございます。

【座長（水野）】

ただいまの御説明がございましたが、何かございましたらどうぞ。

25年度以降の大体の実施方針と、これからのこともちょっと述べられておりました。よろしゅうございますか。

（挙手する者なし）

それじゃあ続いて議事の3に入りますが、平成26年度水質浄化対策の実施結果についてでございます。

この点、御説明をいただきたいと思ひます。

---

### 3. 議題（3） 平成26年度の水質浄化対策の実施結果について

---

【事務局（矢川）】

河川課の矢川です。よろしくお願ひいたします。

それでは、資料3をご覧いただきたいと思ひます。

まず、26年度に実施させていただきました浄化対策の結果について御説明を申し上げます。

1つ目のポイントですが、揖斐川から大江川への導水につきましては、今年度も県土整備部、海津市を主体として行いまして、資料3の1ページ目の波線の中に囲ってあるとおりの結果が出ております。今年度は6月の下旬から9月の中旬まで約2カ月半程度導水を実施いたしました。24年度に比べまして、大江川全体の水温としては約4度ほど下げることができています。また、リンについても3割程度低下するというところで、今年度も水質改善の効果を確認しております。

また、大江川は非常に流れが緩やかな川でございますが、これも昨年と同じように流速については通常の2倍程度になっているということを確認しております。そういったことも含めて、導水期間中にアオコの大量発生ということは確認をしておりません。

また、今回、この中で四角から2つ目のポツになるんですが、導水期間中に大江川全域でウキクサの大量発生というものが確認されております。この点については、後ほど御説

明をさせていただくことにします。

一番最後ですが、揖斐川での水質検査の結果について、今年度は調査地点は3カ所です。その中で揖斐川に合流する大江川からの影響といったものは明確なものは確認されなかったということでございます。

1 ページ目の導水の実施状況についてですが、今年度は6月27日から9月13日の朝7時までを実施しております。このうち大雨とかで15日間未実施という日がございますが、基本的にはこの期間中、午後8時から翌朝の7時まで毎秒1トンの導水を行っております。水源の手当てについては、先ほど岩崎課長のほうから御説明させていただいたとおり、通常におきましては揖斐川の放水の範囲で取水をしております。万石地点で流量が30トン下回るときには、徳山ダムのほうから県で確保しております都市用水の一部を活用しまして1トン上乘せして放流していただいて、それを取水しているということでございます。

表-1に平成26年度の導水の実績を記載しております。6月から9月までの導水量といたしましては、今年度は約215万トンの導水を行いました。

2 ページ目以降は、導水の状況を示した資料となっております。中江揚水機場から取水をいたしまして、土倉の揚水機場のほうへ入れまして、そこから専用のポンプで大江川のほうへ導水するというを行っております。

飛んでいただきまして、4 ページのほうをご覧ください。

上に記載してあります図-5、平成26年度の支川馬目橋付近の状況というグラフを記載しておりますが、気温と水温を折れ線グラフで示しております。ちょっと細かくて見にくいんですけど、中段の表の中にある天候というものを記載してございまして、8月は少し雨が多かったということになっております。その結果も踏まえてですが、8月以降ほとんど水温30度を下回る結果というのが今年度は確認されております。

続きまして、その下の表-2でございます。7月、8月の気温、水温の状況について取りまとめたものでございまして、7月につきましては一昨年、昨年とほぼ同様のような気温でございますが、8月については降雨の影響もあって、少し低い気温となっております。

次の5 ページ目でございますが、今年度の導水の効果というか、大江川の状況を写真に載せさせていただきまして、下から平成24年度、25年度、26年度というふうになってございまして、24年度はアオコが少し発生しておりますが、25年度、今年度も引き続きアオコの大量発生というものはございません。水面が緑色になってございまして、これはアオコじゃなくウキクサというものでございます。

次のページをごらんください。

5 番の水質調査のところでございまして、今年度も昨年に引き続き水質調査を行っております。調査地点については、次のページの7 ページは細かいもんですから、A3の資料の1枚物のほうをごらんいただきたいと思います。導入のほうから0ダッシュ、1、3というふうな四角で囲ってございまして、今年度も水質調査を実施いたしました。

取水地点から揖斐川本川。

(発言する者あり)

A 3 資料の一番後ろです。1 枚物をつけております。

大江川につきましては、0 ダッシュから 1、3、6、7 というふうに番号を振ってあるところで調査をしております。少しわかりにくいですが揖斐川本川におきましても、取水地点のすぐ近くのところの A という地点と、あと大江川が合流する図面の一番下になりますが B の地点、少し上流の油島大橋のところを B ダッシュというところの 3 カ所について、調査を行っております。

項目といたしましては、先ほどに引き続き水温、pH、溶存酸素等の項目を実施しております。基本的に 1 週間に 2 回程度ということで実施をいたしました。導水が終わった後も導水の効果を検証するというので、水質調査を行っているところです。

水質調査の結果についてなんですけど、今の A 3 の資料の右上の囲みのところ、字が小さくて申しわけありませんが、ごらんいただきたいと思います。

まず、上の緑で囲ってございます。0 ダッシュから 8 の地点、これ大江川の上流から中流にかけての部分に当たります。その間の平均値ということで評価をさせていただいております。まず水温につきましては、導水を実施していない 24 年度に比べまして、一番下のところで約 4 度下げることができております。また、表の真ん中あたり、BOD、TP、TN、あとクロロフィル a につきましても減少ということ、すみません、総窒素については 24 年度と変わってございませぬが、それ以外については減少ということを確認しております。ちなみに流速につきましては、昨年度と同じ値で、通常時の約 2 倍程度の流速を確認しているところです。

同じ表の一番下の下流域の 9 と 10 地点、平均値のほうをご覧いただきたいと思います。こちら上流と同じように、水温については約 1.5 度下げることができております。見ていただきますと、基本的にはほとんどの項目で 24 年度に比べて減少という結果を得ております。ただ、窒素についてはやや上昇という結果が得られました。全体の効果といたしましては、導水を行うことによって、水温、アオコの要因となりますリン等を引き下げることで、結果的にも植物プランクトンの量もアオコの量も減らすことができたというふうに考えております。流速も上昇が見られたので、わずかですが流れが戻り、そういうことも一つの要因だったのではないかと考えております。

続きまして、揖斐川の合流地点の調査結果についてですが、今の資料の左側の囲みの中の下少し小さいところになります。これは B ダッシュと B の地点になりまして、B の地点につきましては、25 年度から引き続き調査を行っております。B ダッシュの地点については今年度新しく調査を行ったところでございます。場所としましては油島大橋のところ、大江川が揖斐川に合流することで、本川にどのような影響があるのかというところを考察するために、今回このような調査を行っております。

調査結果を見ていただきますと、BOD については若干微増という傾向になっておりま

すが、それ以外で大きく数値が上がっているようなところはございませんので、大江川によって明確に影響しているというところは確認をされていません。

お手元の資料に戻っていただきまして、10ページをごらんいただきたいと思います。

10ページの下ですね。⑥で平成26年の導水効果について、(1)でウキクサの発生という項目をつくらせていただきました。ここに書いてございますとおり、今年度は6月中旬ごろから上流域でウキクサが確認をされて、7月に入って中・下流域でも確認されるようになっております。その状況を撮った写真が資料の12ページになります。12ページの写真の4のほうに今年度のウキクサの発生状況を載せてございます。

この4ですが、大量に発生した要因といたしましては、水温、日射量、あとは富栄養化によるものが考えられておりまして、発生要因としてはアオコと同様ではないかというふうに考えております。大量発生が長く続いて、ずっと滞留し続けると腐敗して異臭が発生するということもございますので、大量発生した場合には注意が必要になってまいります。ただし、このウキクサにつきましては、リンや窒素も吸収しますので、水質浄化に十分な効果があるのではないかと考えられます。

以上が簡単ですが、26年度の揖斐川から大江川への導水実施の結果でございます。

資料をめくっていただきまして、15ページのところに昨年度に引き続き、大江川に流入する河川、支川の影響を確認するために水質調査を実施しております。場所については昨年と同様でございます。

それぞれの各地点の状況につきましては、17ページ以降に記載してございます。

17ページのところで、まず一番上流のところを御説明させていただきますが、雨の降っていないときと降雨時を比較しております。これを見ていただくと、aの地点におきましては、降雨によって窒素の値が上昇しております。これは降雨によって栄養塩類が流入しているんじゃないかというふうに推定をしています。

続きまして、18ページはもう少し下流のところです。b地点についてでございます。この表につきましても、通常時と降雨時を比較しておりまして、地点の6ですので、支川が流入する前と流入してからを比較していただくと、地点bのほうがBOD、リン、窒素の全てでこの地点よりも高い数値を観測しております。濃度についてはそういう結果になっておりますが、汚濁負荷量につきましては、地点6とbを比較していただくとかなり小さい値になってございますので、流入する水路から大江川に与える影響は少ないのではないかとこのように考えております。

続きまして、19ページでございます。

この大江川と東大江川の合流する地点でございます。こちらも先ほどのbの地点と同様、降雨によってリン、窒素が高くなっておりますが、BODは下がっているというような結果でございました。

資料の20ページをごらんください。

20ページの総リンの流入源の特定というところで記載をしてございます。20ページの下



の表－9を見ていただきますと、1ダッシュの地点が最も高い数値を観測しております。これにつきましては、次の21ページの下図－14流入水路位置図というのがございますが、1ダッシュの地点の上下流のあたりでリンの高い、リンを含んだ水が大江川のほうへ流れ込んでいるのではないかというふうに考えております。

簡単ですが、以上が当面の対策として取り組みました今年度の導水による結果の報告とさせていただきます。

引き続きまして、関係機関のほうで取り組んでいただきました中長期的な対策について御説明をお願いしたいと思います。

資料のページといたしましては、26ページからになります。

まず、中長期的な対策といたしまして、下水道整備の推進及び水洗化率向上に向けた取り組みについて、海津市さんのほうから御紹介をいただきたいと思っております。

#### 【海津市建設課（丹羽）】

海津市役所建設課の丹羽と申します。よろしく申し上げます。

それでは、海津市の下水道整備の推進及び水洗化率向上に向けた取り組みについて、御報告申し上げます。

内容といたしまして、市の下水道整備計画にあわせて下水道整備を進めるとともに、水洗化率向上に向けた住民の理解促進を図る取り組みを実施いたしました。

結果、平成26年度は平成25年度と比較いたしまして、下水道整備率が0.9%進捗し、水洗化率は0.4%向上いたしました。

市の目標といたしまして、平成29年度時点でございますが、下水道整備率が約90%、水洗化率が約75%であります。

26ページ下の四角囲みの中でございます。下水道整備の状況、平成26年11月30日時点でございます。海津市の下水道整備率は84.2%、この数値につきまして、下水道計画人口が3万6,548人、対しまして整備済みの人口が3万786人でございます。あと、水洗化率のほうでございますが、64.8%でございます。こちらが整備済み人口が3万786人、接続済みの人口が1万9,906人でございます。平成26年1月31日から26年11月30日までで、下水道接続件数がこの間に150件ございました。

次に、具体的な活動につきまして、27ページのほうでございますが、水洗化率の低い地域の個別家庭訪問による推進活動を行いました。平成26年度の実績といたしまして、訪問戸数が127戸、重点地区といたしまして高須地区ですね。市役所の本庁のあるところでございます。

次に、工事説明会におけるPRを実施いたしました。下水道工事実施計画区域での工事説明会で、住民に対し下水道の役割等の重要性について説明し、速やかな接続をお願いいたしました。平成26年度の実績につきまして、工事説明会1回でございますが、実施いたしました。

次に、小学校に対する啓発活動を行いました。下水処理の重要性について理解をしてい

ただき、各家庭における下水道接続への啓発につなげるため、小学生を対象に下水処理場の見学を実施いたしました。平成26年度の実績といたしまして、小学校1校及び高校1校に対して実施いたしました。

28ページでございますが、市内全域に対する広報といたしまして、市報「かいづ」でございますが、市内全域に対し下水道の重要性等につきましてPRをいたしました。平成26年度の実績でございますが、5月号及び9月号の市報へ記載いたしました。以上です。

【事務局（矢川）】

ありがとうございます。

続きまして、29ページからになります。農地等における栄養塩類の削減対策について、県農政部農業技監さんから説明をお願いいたします。

【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】

農政部農業技監の熊崎でございます。

それでは、資料29ページ、農政部から流域対策として農地等における栄養塩類の削減対策について御説明をいたします。

削減対策といたしましては、1) のぎふクリーン農業の推進、それから2ページ飛びますけれども、2) の畜産農家における適正処理の指導の2つがございます。

まず、29ページのクリーン農業につきましては、昨年と大きな変更点はございませんが、今年度もこの取り組みを継続いたしまして、環境に優しい農業の推進に努めているところです。

ぎふクリーン農業につきましては、下段の参考四角囲みでございますように、各種代替技術の利用によりまして、化学肥料と化学合成農薬の使用量を従来の栽培と比べ、30%以上削減した栽培を行うものです。

中段以下の水稲につきましては、海津市の生産登録面積は3,509ヘクタール、これはほぼ全域の取り組みとなっております。ここには記載してございませんが、県全体の取り組みが約4割という状況ですので、これを考えますと海津市では非常に積極的に取り組んでいただいているものと理解しています。

また、ほとんどの地域では肥料成分がゆっくりと溶け出して、肥料効率が高い被覆肥料が利用されておりますので、肥料成分の流出防止には役立っているのではないかと考えています。

さらにクリーン50といたしまして、30%から20%プラスして50%の削減に取り組んでいる農家の方もおられます。これにつきましては、面積的にはまだ28ヘクタールという状況でございます。以下、大豆、それから次の30ページ、トマト、キュウリ、イチゴとございますけれども、これにつきましても昨年と同様にクリーン農業に取り組んでいます。

31ページは、畜産農家における適正処理の指導についてです。

表－7にございますように、大江川の流域には酪農家が5戸、肉用牛農家が1戸、養鶏農家が3戸、計9戸の畜産農家の方がおられます。特に酪農及び肉用牛につきましては、

おが粉等にふん尿の水分を吸着させまして、発酵処理等が行われており、施設から汚水が流れ出るような状況にはなっておりません。

今年度、県の西濃農林事務所と中央家畜保健衛生所が海津市さんと協力をさせていただき、全ての畜産農家の現況確認を行ったところです。いずれの農家におきましても、大江川に環境に影響を及ぼすと考えられる事案は認められませんでしたけれども、一部管理上で課題等ございましたので、改善指導など行ったところです。以上です。

**【事務局（矢川）】**

ありがとうございます。

続きまして、32ページ以降になります。地域における取り組みについて御報告をさせていただきたいと思います。

まず、パトロールと清掃活動の関係につきましては、海津市さんのほうから御説明をお願いいたします。

**【海津市建設課（丹羽）】**

流域の住民団体と連携した大江川の巡回パトロールの実施をいたしました。

まず、海津市による巡回パトロールでございますが、市の建設水道部建設課の職員によりまして、囑託員も入れまして18名でございますが、通常監視と流域監視を実施いたしました。

通常監視、これは定点監視でございますが、支川馬目橋地点というところがございまして、過去にアオコが大量に発生、腐敗した地点でございますが、年間を通し定期的に水面の状況等を確認いたしました。調査事項といたしまして、観測地点によりまして、水位、水温の計測。当然アオコの有無も入っております。調査時間につきまして、14時を基本としておりますが、8月、9月につきましては1日2回行いまして、朝は9時、昼は14時ということで実施をいたしました。実施頻度につきましては、4月、5月、11月、3月につきましては2週間に1度行いました。6月と10月におきましては週に1回、7月につきましては1日1回、先ほど申し上げました8月、9月につきましては土・日も含めまして毎日朝9時と昼2時に定点監視を行いました。

流域の監視でございますが、大江川全域でございますが、パトロールいたしまして、目視によるアオコ発生状況等を確認いたしました。実施頻度につきましては、7月と8月と9月、週2回となっております。

33ページのほうでございますが、流域住民団体と連携した通報体制の構築といたしまして、市民の住民団体であります水草対策の会と連携いたしまして、適時アオコ監視を実施しております。夏季におきまして、適時こちらの団体のほうに流域の巡回を行っていただき、異常時には建設課のほうにすぐ連絡していただくような体制を構築いたしました。幸い26年度につきましては、アオコの大発生が見られず、通報実績はございません。

下の写真につきましては、ウキクサを回収しておる状況写真でございます。アオコではございません。

次に35ページでございますが、海津市によります河川流域の清掃活動につきまして説明申し上げます。

海津市では、市内一斉美化運動により住民ボランティアと連携した清掃活動を実施しております。26年度につきましては、6月1日、10月19日に実施いたしまして、6月1日におきましては約8,000人の市民の方が御参加いただきまして、8.49トンのごみを回収いたしました。10月19日につきましては約7,500人に御参加いただき、8.33トンのごみを回収いたしました。以上でございます。

**【事務局（矢川）】**

ありがとうございます。

続いて、地元の高校の取り組みというところで御報告させていただきます。

地元高校の海津明誠高校におきましては、波線の囲いに記載してありますように、クリーン作戦による学校周辺の清掃活動と、スーパーにおいて環境の保全の呼びかけ、あと空芯菜を用いた水質浄化対策を今年度も実施していただいております。

クリーン作戦については、その下の四角の囲いにございますとおり、9月23日に実施をしていただき、190名ほどの方が参加されております。

1枚めくっていただきまして、②といたしまして、スーパーでの河川環境保全の呼びかけを行っていただいております。10月2日に店頭でお店にいらっしゃる方に対して河川環境の保全の呼びかけを行っております。参加人数は約30人というふうにお聞きしております。

次の37ページでございます。空芯菜を用いた水質浄化対策についてですが、これも昨年と同様に行っております。つけさせていただいた写真は今年度の状況でございます。昨年と同様にフロートの中に4株ほど入ったものを20フロート浮かべまして水耕されたと同っております。昨年、ヌートリアに食べられる被害がございましたので、今年度は大垣土木事務所のほうと連携いたしまして、設置するとき、あとは栽培中の食害対策等を行って、今年度も実施をいたしたところでございます。

少し長くなりましたが、以上で26年度の浄化対策の結果を御報告させていただきました。

**【座長（水野）】**

26年度の水質浄化対策の実施結果で、当面の対策と中長期というか、両面から報告を今受けましたが、この点について御質問なり、あるいは追加されることがありましたら、どうぞ御発言ください。

**【岐阜大学教授（李）】**

岐阜大学の李と申します。水質を少々勉強しているところです。

8ページのほうに水質調査というので示されていますけれども、特に見ていただきたいところは、私はいつもリンを見たいところでありまして、窒素そのものについてはそれほど著しく高いわけではない。まずこの表の中の前年の部分でおもしろいものというのは、大江川の地点9番と10番のところで、もちろん平均値ですけれども、その下流域での濃度の値、0.13とか0.11。その値と揖斐川のほうでの値、0.07とか0.08ぐらいになっています

けれども、それで見えた場合は比較的に類似していると。それに比べると上流のほうはそれの3倍ほどですね。導水期間中でも0.2とか、そのくらいになっていますから、それがリンという栄養塩から見た場合は、もちろん藻類、または今年見えたウキクサの生育にかかわるようなものですから、ただこれで一つ言えるというか、あるいは確認していただいたことでもあるけれども、下流でも今年、最初は上・中流で形成されて、その後で下流のほうでも観測をされた。全ての今の水質と関連して考えた場合は、場合によっては下流で見えたものは下流の区間で集水域から必要な草が出ているならば、そこからの混入も考えられるけれども、場合によってはほとんど上・中流域から形成されるものがそのまま流れ込んできたんじゃないかと、そういうようなことが場合によっては言える。そういうことがまず1点であって、それから実際はそうであれば事務局さんのほうで何か解釈とかあれば、聞かせていただければということと、本当にそうであるならば、それはやっぱりそれなりの確認も望めますから、じゃあどういうふうに確認できるかというような方法も、中・長期で考える上では重要になってくるんじゃないかというふうに思うんですね。

あとは、降雨することによって一部の上・中流で別途調査したところでは、確かにリンも窒素もそうですけれども、大分増えてきているということはやっぱり集水域の中に必ずリンが、栄養塩が多く存在しているような、あるいは蓄積しているような、あるいは堆積しているようなところがあるというのは明らかであって、それに関連しまして岐阜では、先ほどの農政部の御報告の中にぎふクリーン農業を進めていると。

あまり浄化槽とか下水道からの流入が一定であると考えた場合は、推測では多分農協からの、あるいは農地からの流入負荷が少々常に存在しているんじゃないか。それで、今はぎふクリーン農業が進められて、ところがこの項目を見ると、窒素成分がどのくらい削減されるとか書かれていますけれども、先ほど申し上げたように、窒素ももちろん注意するけれども、多分リンのほうの方が気になるので、リンがどのくらい含まれているとか、そういうようなものも場合によっては化学肥料より多いかもしれませんね。素人でわかりませんが。そういうようなものの調査もしあわせていけるならば、JAの協力をいただいて、その肥料のものについて1回分析すれば大体わかってくるものですから、そういうようなものもできるといいかなというふうに思います。以上です。

#### 【事務局（矢川）】

まず、1点目のウキクサの発生状況ということについてですが、資料の12から13ページにかけて少し記載をさせていただいております。

確認できた状況といたしまして、まず6月に導水した上流域も含めて上流のほうで確認をしております、それがだんだん時間経過で7月になると中間で、8月になると全域というふうになっておるんですけど、先ほど先生から御指摘いただいたように、リンとか窒素の濃度は上流のほうが下流よりも高いということでもありますので、多分上流で発生した草がだんだんと下流のほうへ広がっていったんではないかなというふうに考えております。

【岐阜大学教授（李）】

13ページが一番上の……。

【事務局（矢川）】

どこか途中から入ってくるというよりは、上流からのものがだんだん下流のほうへ広がっていつているんじゃないかなと。

【岐阜大学教授（李）】

それと考えた場合は、場合によって藻類の、去年は幸い温度が4度ぐらい低くて、藻類の形成は確認されましたけれども、場合によって藻類が形成される場合でも下流で見えるような状況になった場合でも、上流からの流入は十分考えられますね。上・中流での栄養塩の削減が場合によって重要になってくるかなと思いますね。わかりました。

【事務局（矢川）】

もう1点の農薬については済みません。

【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】

先生おっしゃられるように、資料の29ページに書いてあるのは、窒素成分の削減ということで、岐阜のクリーンの場合は窒素の削減というのが目標になっておりまして、リンそのものの規定はないという状況でございます。

ただ、リンにつきましては、肥料的にも非常に価格が高いということで、農家の方も余りリンを過剰に施肥するというのは従来からないということで、我々としてもリンの過剰施肥というものは余りないのではないかと認識しております。それから、キュウリとかトマト、イチゴの農家の方ですけれども、こういった方は特にリンとかカリが過剰に施肥されないように、全ての生産者が土壌診断をされまして、その結果に基づいて施肥については県のほうでも指導させていただいているという実態にあります。

ただ、これ昨年も申し上げましたけれども、高須輪中の中で農地というのは絶対量が非常に多いということですので、農業としては当然、生産性も品質も求められる中で、やはり過剰な施肥というのは避けて営農していくというのが基本的な考え方と認識しております。

【岐阜大学教授（李）】

先ほどの最初の御挨拶の中で、平成22年で大量発生しまして、今に至っていますね。過去で、じゃあ5年前はどうであったか。下水道の普及率はふえてきている。つまりポイントソースから見た場合は削減されつつあると。にもかかわらずふえているというのは、問題が最近5年で生じたというのは、もしかすると何が変わった。堆肥飼料が使われて、それによって物が多めになってきたんじゃないかというような推測に基づいた確認というか、質問であったわけです。

余り分析にかけるにはそんなに金がかからないようなものですから、推奨をされている肥料等について、過去のもの比べて多いか少ないか。そのような情報がないと、中・長期で何か物を考えるという場合は少々根拠が足りないんじゃないかというふうに思います。

【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】

過去のデータがどこまであるのか把握していませんが、その辺は一度どのくらいの使用があったのか調べられることがあれば、農政部としては分析していきたいと思います。

【岐阜大学教授（李）】

通常は例えば化学肥料と書かれていますね。確かに農家の方々では養鶏場で出されたし尿を堆肥として使っているところもあるので。

それと比べて、例えば多いか少ないか。それは容易に実施されるようなものかなとは思っています。

例えば化学肥料以外に堆肥も使いますね。堆肥も例えば鳥からのフンであろうが、あるいは下水処理場の汚泥であろうが、基本的には微生物の塊ですから、微生物も含んだものですから、化学の構成から見たら炭素、窒素、リンですから。だから、リンは場合によっては通常の化学肥料よりも、もしかすると多くて、かつ流出しやすいかもしれません。わかりませんが、そういう意味で同じ1グラム程度でリンがどのくらい含まれているか。想定してわかってくるようなものであるんだから、そういうような情報ももし出してくれば、場合によってはクリーン農業そのもののすばらしさがさらにわかってくるかもしれませんし、あるいは逆かもしれませんね。そういうようなこと。

【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】

堆肥につきましても、流域内に9戸あって、その堆肥がいわゆる耕畜連携という中で、農地に還元するというのは農政としては当然の話です。しかし、それが過剰であるかどうかというところの判断としてはデータの的にはわかっていませんので、そういうものがもしわかれば分析する必要があるかなとは思っています。

【岐阜大学教授（李）】

もしそれが最近数年でより一層推進されてきているようなものであれば、もしかするとその部分とのかかわりが少々あるかもしれない。そういうような思いだけです。

【海津市長（松永）】

今びっくりしたんですが、クリーン50というのはどういう、対象は野菜ですか。

【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】

水稲です。

【海津市長（松永）】

水稲ですか。

【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】

はい。

29ページのアの水稲の※印の2つ目のところに。

【海津市長（松永）】

特別栽培米。

【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】

特別栽培米ということで、高須では面積的には28ヘクタールほどの方が取り組んでおられます。

ただ、これは誰でもできるものでもないものですから、当然収量は落ちてくる可能性もあるし、栽培技術も伴いますので、これを全部でやるというのはなかなか難しいとは思いますが。

【海津市長（松永）】

ちょっと50%カットというのはびっくりしましたから。

【座長（水野）】

そのほかに何か。

【事務局（岩崎）】

事務局から1点、少し御知見のある先生方にヒントをいただければというふうに思うんですけど、先ほど李先生のほうからも少し触れられたんですが、ウキクサの発生要因ということで見ますと、この導水につきましては本格的実施をしたのが25年度ということで、今年度は2年目なんですけれども、水質あるいは水温の検査の結果を見ても、25年、26年と、それほど大きく変わりがいい中で、昨年度はウキクサがなかったものが今年度はかなり発生したというのが、どういった原因なのかというところがいま一つ違いというものがある分析し切れていないところがありまして、そういったところで何かこういう関係があるのではないかというようなものがあれば、そこを少しヒントに対策も打ちようがあるかと思っておりますので、そういった観点で御助言といいますか、コメントがあればいただきたいというふうに思いますけれども。

【座長（水野）】

どなたかそれに対して。

私は、ウキクサあるいはコウキクサにしましても、それは随時というか、どこにでも常在する因子なんです。それがどうして大江川に入って大量に発生したか。発生するというのは、やはり窒素とかリンとか、そういうのが非常に高濃度になっているからふえるわけですが、そこへ来て、どうして来たかというのは流水があって、そして従来は田んぼとか土手とか、そういうところに常在していたのが大江川に入ってきたんじゃないかと思いますが、それで大江川に入って高濃度の好条件といいますか、そういう条件だったもんだから繁殖をしたと。繁殖すれば光は遮られるし、あるいはアオコ自身の発生の濃度も減少するというので、ウキクサの天下になったというわけですが、僕も考えたんですが、一つのアオコが発生するような環境の水質条件、あるいは気象条件というものを踏まえて、それを流出することによって揖斐川の水を入れて、流出することによって多少とも減少するような、要するに無機物の濃度を減少するような、そういう政策をとって少なくなるんじゃないかという方向で来ているわけですが、しかし偶然にアオコが発生すると。この濃度条件は全くアオコとウキクサと同じような条件で発生するんですが、条件の光の吸収度合いはウキクサが多いわけですね。



したがって、ウキクサが発生すると同時に、その付近における濃度が減少して、アオコ自身は発生がなかったんじゃないかというふうなふうに考えられるし、実際にアオコ自身が大量に発生しているような場所で、それを駆逐するような施策として、他のそういう水生植物、あるいはウキクサの類を導入することによって浄化するという方法もあるわけですので、それがうまく何らかの形で入り込んだというわけですが、そのあたりはまたよく調査しなきゃいかんですが、今後の対策で考えると、そういう推移を持っている大江川のアオコの現状を簡単に他の生物によってそれを駆逐して、浄化することができたということなどをどのように評価して、それをどのように大江川全体の浄化に結びつけていくかということは、いろいろと協議して意見をさせていただきなきゃわからない、そんなことをちょっと思いましたが。

**【事務局（岩崎）】**

ありがとうございます。

結局アオコとウキクサというものがそれぞれ競合し合う関係だということなところにはまず一つ特徴があって、加えてウキクサというものを是とするのか非とするのかということについては、その対策のありようですとか、放置した場合に与える周りの影響だとか、そういったことも考えながら、対策をまた総合的に検討していくということが大事だと思います。

**【座長（水野）】**

そうだと思いますね。

それはもう少し来年度の実施というところで、皆さんに御意見いただけたらと思います。

**【岐阜大学教授（李）】**

まさに今おっしゃっているような、今、先生のお話ししたようなウキクサのたぐいが入ってきたと。だから、それが通常の藻類よりは場合によっては生息するとか早くて、あるいは栄養塩類をいっぱい摂取すると。そういうようなもので、共存しながらたまたまウキクサが優勢になってきた、そういうようなこと。

また、住民にとっては有効利用はもちろんいいけれども、その時期になって水面丸緑で汚れて、回収しないと腐敗してくると考えた場合は、利用の方法はもうちょっと何か特異的な区間も見て何かうまくできるんなら非常にいいことであって、でもいずれにしましても、先生が今おっしゃったように、栄養の富化が高いというのが一つの特徴であって、だから中・長期的に、今農協のほうで一生懸命やっていらっしゃる下水道に連結するような策もきちんととられていることに加えますと、多分流れを持たせることが重要になってくるのではないかというふうに思います。

**【座長（水野）】**

新しい流れというか、総合的にもやはり浄化には効果が出ていると思いますが、それをもう少し合理的にどう持っていくかというのがこれからの、来年度の対策じゃないかと思えますけど。まあうまくいっているんじゃないかと思えますよ。

いいですか。あと、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

じゃあ次に入りたいと思いますが、議事の4でございますが、来年度の水質浄化対策についてでございます。

---

### 3. 議題(4) 来年度の水質浄化対策について

---

#### ○【事務局(矢川)】

それでは、資料の4をご覧くださいと思います。

資料の4の当面の対策といたしまして、波線の囲いの中に記載してございます。今年度と同様に来年度も引き続き揖斐川から大江川への導水を継続して実施していきたいと思います。期間としましても今年度と同様にアオコの発生する、いわゆる水温が上がってくる6月下旬ぐらいから9月上旬ぐらいまでの期間、おおむね3カ月程度を考えております。あとは実施と、アオコの発生状況によっては水の攪拌といったことも必要になるというふうに考えております。

来年度の予定といたしましては、1ページ目の一番下のところに書いたとおり、アオコの発生する7月、8月の期間中、導水をして水温を下げ、栄養塩類、リンとか窒素ですね、このあたりの数字を下げながら様子を見ていきたいというふうに考えております。

2ページのほうをごらんいただきたいと思います。

2ページの(2)番、攪拌・回収ということで、実際にアオコが発生した場合の対策をここに記載させていただいております。今年度は発生がございませんでしたので、特に対応を行っておりませんが、もしも発生した場合に集積するのを抑えるということで、攪拌を行ったり、必要に応じて回収を行って処分ということを考えております。これにつきましては、国土交通省さんのほうに御協力をいただきながら対策を実施していききたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

あと、その下がウキクサについてなんですけど、これも今年度と同様に来年度も現状を考えますと、また発生するということが十分想定されますので、そのあたりについては今年度と同様に下流への流出だとか、大量に発生すれば固まって腐敗するといったような場合には、回収をしながら対策をとっていききたいというふうに考えております。

続きまして、3ページ目の中長期的な対策につきましては、それぞれ関係する機関のほうから御説明していただきたいと思います。

まず最初に、下水道の関係については海津市さんのほうからお願いします。

#### 【海津市建設課(丹羽)】

下水道整備の推進及び水洗化率向上に向けた取り組みにつきまして、今年度と同様に来年度も行ってまいります。

1番といたしまして、水洗化率の低い地域の戸別家庭訪問による推進活動、来年度は約180戸を予定しています。工事説明会におけるPRも引き続き実施いたします。

3つ目といたしまして、市内各種団体や小学校に対する啓発活動につきましても、引き続き実施いたします。

4ページ目でございます。

4つ目といたしまして、本年と同様に市内全域に対する広報、市報によりまして市内全域に対し、下水道の重要性等についてPRをいたします。以上です。

**【事務局（矢川）】**

続きまして、5ページ目以降で農地等における取り組みとしまして、農政部さん、お願いいたします。

**【岐阜県農政部農業技監（熊崎）】**

来年度におきましても、ぎふクリーン農業の推進と畜産農家における適正処理の指導を継続して実施していきたいと思っております。

クリーン農業につきましては、これをただ単純に維持していけばいいというだけでなく、いろんな課題が絶えず発生をしているというのが状況です。例えば大豆の難防除雑草、帰化アサガオの被害が発生したりとか、あるいはキュウリに対しては害虫による被害といったものも出てきておりますので、県としてはこういう新しい課題に対して効果的な除草試験とか、あるいは赤色ネットの導入といったようなことを含めて、クリーン農業を進めていきたいと思っております。

それから、畜産農家における適正処理の指導につきましては、今年度も海津市さんと県と連携して個別の農家を指導させていただいておりますが、来年度も引き続き現地調査をさせていただき、農家の指導をしていきたいと考えております。以上です。

**【事務局（矢川）】**

ありがとうございます。

6ページ目以降が地域における取り組みでございます。巡回パトロール、清掃活動について、海津市さん、御説明のほうをお願いいたします。

**【海津市建設課（丹羽）】**

巡回パトロールにつきましても、今年度と同様に通常監視、流域監視とも同じ頻度にて実施いたします。流域住民団体と連携しまして、通報体制といたしまして、よく連携をとりまして実施していきたいと思っております。

9ページでございますが、河川流域の清掃活動といたしまして、市内一斉美化運動を来年度に開催いたします。来年度につきましては、6月7日、10月18日となっております。参加者につきましては各回8,000人を予定しております。以上です。

**【事務局（矢川）】**

続きまして、(3)番の地元高校の取り組みについてですが、今年度も海津明誠高校さんの御協力をいただいております。

来年度につきましても、引き続き取り組んでいただけるようお願いをしていきたいというふうに考えております。

以上が来年度の水質浄化対策についてでございます。

**【座長（水野）】**

ありがとうございます。

来年度の水質浄化対策についての当面の対策と、それから中長期というような面から各機関で行っていただくような問題点ということは今御説明ありましたが、あと何かこんなことをというようなことがございましたら、どうぞ御意見ください。

**【岐阜県議会議員／高須輪中土地改良区理事長（森）】**

海津市でアオコが発生して、こうやって社会実験を続けていただいたおかげでアオコの発生がなくなってきたと。先ほど流れも出てきた、水温も下がった、このことがアオコの発生に大きな効果があってということなんですけど、今年度初めてウキクサが大量に発生したんですけれども、ちょっと私も知識がないんで、偶然ウキクサが大江川に入ってきて大発生につながったということのように私は伺ったんですけれども、来年度も同じように社会実験していただければ、アオコは大丈夫だというふうに思っているんですけれども、今度ウキクサが同じようにまた来年度も発生したとき、どういうふうにパトロールとかして早目に除去するのか。今年度でも最初一部やったのが大江川全体に広がってしまった。

だけど、なぜそんなに大量発生しちゃったのか、その辺のメカニズムがまだわかってないというようなお話でしたけれども、ぜひ来年度は早目にウキクサの対応も何か考えていただけると、今年度みたいに大江川全体に広がってしまうということはないんじゃないかなと思うんですけれども、ウキクサのおかげでアオコを抑えることにもつながっているという説明もございましたので、でも私も現場を何遍も行ってはいますが、本当に川全体にウキクサが大発生している。やっぱりこのことを市民の皆さんも見られて、大変アオコと勘違いされる方もあるし、これをもっと早期に抑えることができる、そんな対策も最後のところで出てくるのかなと思いましたが、その辺はいかがでしょうか。

**【事務局（岩崎）】**

先ほどの資料の3のところでも少し簡単に触れましたけれども、ウキクサの発生の大きさとどういふのでしょうか、それが比較的上流域になるのではないかなというような推察もしておりますので、それが徐々に下流のほうに広がっていったというような、そういった評価もございますから、比較的にオイルフェンスなど押さえやすい、そういったウキクサですから、大江川ってそれほど大きな流れがないものですから、オイルフェンスなどで上流で抑えるというようなやり方も一つあるのではないかと思います。

その中で一定部分で集積した中で、それを回収するということは経済性のことも考えなきゃいけないので、そのあたりのやり方についても、また先生方の御指導もいただきながら、試行的に実施するということになるんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

【座 長（水野）】

そのとおりだと思うんですけど、それで従来のあれを見てみますと、ウキクサ、コウキクサはたんぱく源であって、普通の水田に発生して、繁茂したようなやつをみんな集めて、たんぱく源としての肥料にするというのが記録されているし、実際にそういうことをやられている市町もあるんですが、去年はそういうようなことがあるかというわけでたんぱくを測定したんですが、非常に高たんぱくを含んでいるということで肥料に使えると、たんぱく源としてというようなこともあるし、収穫して、それを肥料に使うような農家なりそういうことがあれば、そういうことも使うことができるんじゃないかと思います。

それで一つ、今までは無機物をやっていたんですが、肥料としてウキクサをもし使おうとすると、流れてきた農薬とかそういうものはどの程度の濃度であるかというのは、見ていかなくはいけないんじゃないかと思いますが、その点は水もそうですが、農薬自身の濃度ですね。恐らく小さい濃度だと思うんですが、それを吸収してウキクサが濃縮すれば、かなり効果があるんですが、そういうものは肥料としてまだできないということになりますので、そういう利用はできないんですが、そんなような点も来年度の検討事項としておく必要があるんじゃないかと思います。

【岐阜大学教授（李）】

1点だけ申し上げさせていただきたいというのは、先ほどのお話の中でウキクサが場合によっては、昨年からことしは藻類が発生しなかったと。もちろんウキクサも関係があると思うけれども、来年度がウキクサもあるか藻類があるかわかりませんよ。必ず藻類が発生しないというのは、今の水質状況から申しわけないけれども、多分断言できない状況であると強調させていただきたい、それだけです。

【座 長（水野）】

あと、何か。

（挙手する者なし）

いろいろと御発言をいただきましたが、今回の第1回清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会を終わりたいと思いますが、事務局の皆さん、委員の方も御意見を頂戴しまして、よりよき浄化、清流の国にふさわしい大江川にしていきたいと思いますが、感想としてはやはり導水をメインに行う。いわゆる当面的なものとして行って、そしてそれをオーバーするような意味合いで中長期的なものをもう少し浄化するか、あるいはクリアなものになってくるといようなことがあれば、大江川自身の水質も浄化されるわけですから、そういうような観点から同じような過程で分析をしていただくということにつながりますが、李先生が言われたように、上流から下流へ移るような点で、導水がうまくいけば下流へも移るんじゃないかと思いますが、そういう点も分析のポイントを少し絞っていただければと思うんですが、そんなことを感じながら皆様方の御意見を拝聴しておりました。

各部局のそれぞれの担当のほうでは十分いろいろなことをいただきましたので、それはまたとして御協力いただいでいきたいと思っています。きょうの会議が十分実のある会議であったと思いますが、これで私の座長のほうを終わらせていただきます。あとは事務局のほうへどうぞ。

**【事務局（矢川）】**

水野先生、ありがとうございました。あと、委員の方も大変長時間にわたり熱心に御審議いただき、まことにありがとうございました。

以上をもちまして、平成26年度清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。